



## (1)タイトル 曲想に合った曲に創り上げよう

## (2)サブタイトル コンピュータを活かして表現を楽しむ

### (3)校種、教科、学年

小学校 音楽 4年生

実践者 伊佐治 晃

所 属 岐阜県羽島郡川島町立川島小学校

### (4)コンピュータ活用のアイデア

<アイデア>

色々なリズム譜を入力しておき、それを呼び出して活用することで誰もが表現を楽しむことができる。

曲想に合う音色や速さ、音色を簡単な操作で選び、何度も聴きながら表現の工夫を楽しむことができる。

<メリット>

演奏技能にとらわれることなく楽器を選ぶなど、音楽的な表現を工夫し、楽しむことができた。

表現を工夫する活動を通して、音符や記号の意味や使い方を自然に理解することができた。

### (5)単元・項目

小学校音楽4年 「様子を思いうかべて」

### (6)対応する学習指導要領の内容

(新指導要領)

小学校音楽・4年 / 内容

(2)曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。

(4)音楽をつかって表現できるようにする。

### (7)指導目標

拍子の違いを感じ取って聴いたり、曲想に合わせてリズムや速度、音色などを工夫したりできる。

### (8)コンピュータ活用のねらい

教材曲「おどろろ楽しいポーレチケ」の1番から4番までの情景を感じ取り、その曲想に合うように表現の工夫をする。児童は表現活動に対して演奏技能や苦手意識にとらわれ、意欲的に取り組めない面がある。積極的に表現活動を楽しみ、自分の願いに対して粘り強く取り組む姿を目指して、コンピュータを活用した。



## (9)実践のポイント

### 速度や楽器の組合せ、奏法の工夫

この曲は4場面からなり、各場面の情景を感じ取り 表現を工夫していく。グループの中で一人1場面ずつ担当を決めて作品を作り、最終的にはそれをつなげて一つの曲に完成させることになる。

楽器の組合せを考える際に、普通なら音楽室にある楽器、自分が演奏できる楽器が選択の範囲になってしまうが、ここではコンピュータを活用することで、より広い範囲からの選択が可能になった。

また、演奏技能にとらわれずに自分が選択した楽器の組合せによる演奏や奏法の工夫をすぐに、客観的に聴くことができ、イメージに合うかどうか判断することができた。そして、合わなければその場ですぐに変更が可能である。仲間との相談も容易になる。

### リズム伴奏の共有データ

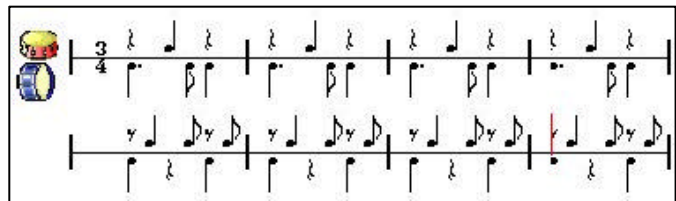
速度や楽器の組合せ、奏法の工夫はコンピュータの利用で容易に工夫できる。問題となるのはリズム伴奏の工夫である。

活動がつまづく理由として

- ・手本のリズムを正しくたたけない
- ・どんなリズムが合うのかわからない
- ・リズムパターンが思いつかない

ことがあげられる。

そこで、コンピュータの中に共有データとしていろいろなパターンのリズム譜を用意した。(gakuhu 1参照)それを各自が引き出し、聞きながら、自分の目指す曲想に合うものを選んでいくことができるようにした。



(gakuhu 1)

範囲を指定し、コピー、貼り付けの方法を覚えてしまえば、容易に自分のリズム譜を完成させることができる。ここでも、<貼り付け 聴く 別のリズムに変えてみる>という作業を繰り返すことで、自分の目指す曲想に近づけていった。メロディーとリズムを聴き、自分のイメージに合うかどうか判断していく。

### ネットワークを利用した相互評価

コンピュータ教室のネットワークを使い、仲間の作品を聴き合う場を設けた。お互いに作品のよさを見つけ合い、また、アドバイスをし合うことで作品を高め合った。



## (10)子どもたちの反応

苦手意識を忘れ、粘り強く取り組む  
苦手意識から意欲をなくし、表現活動に  
楽しさを見出せずにいた児童にとっては、  
演奏技能に関係なく表現の工夫が可能に  
なり、自分の作品を創り上げる喜びを味わ  
うことができた。(gakuhu 2参照)

### 楽譜と音のつながりの強化

コンピュータを用いると自分の試行錯誤  
に応じた、正確な演奏を聴くことができる。  
例えば、スタッカートをつければ、短く演奏  
されるし、(フォルテシモ)をつければ、強く演  
奏される。

子どもたちは必要に応じて記号を使い、  
それによる音の変化によって意味を理解していった。

また、グループ内の交流では、「ff(フォルテシモ)からmp(メゾフォルテ)だと変化が極端だから、間にf(フォルテ)を入れたほうが自然だと思うよ。」そこははずんでいる感じにしたいの。だから、スタッカートを付けるべきだと思うよ。」というように授業の中で取り上げ、説明しても言葉と意味が一致せず、覚えられなかった用語も自然に自分のものにして、使用するようになっていった。

### 個の思いを大切にしたい表現活動

グループではなく一人一人の表現活動が可能となり、個の思いを大切にすることができた。「自分だけの曲」ができたという個の充実感が高まった。

The image shows a musical score for two songs. The first song is 'おどろましよう ランラララ うたいましよう ランラララ' (Oodoromashyou Ranrara Utaimashyou Ranrara). The second song is 'ポーレチケの リズムに はずむよぼく たちは' (Porechike no Rizumu ni Hazumu Yoboku Tachi wa). The score includes vocal lines and piano accompaniment for both songs. The piano part for the first song is marked 'pp' (pianissimo). The piano part for the second song is marked '3/4' time signature.

(gakuhu 2)